

山頭火の 片思い展

川棚を愛した放浪俳人の3か月

2023.5/20(土) ~ 27(土)

各日 10:00 ~ 16:00

※最終日は川棚温泉まつり開催に
合わせ、21:00まで開館します。

下関市川棚温泉交流センター
川棚の杜・コルトホール
(山口県下関市豊浦町川棚 5180)

観覧無料

講演「川棚と山頭火」

豊浦映像クラブ作成の映像資料を鑑賞しながら
山頭火と川棚の関わりについて学びます。

日時：2023.5.20(土) 13:30 ~ 14:45

講師：高岡 勲(郷土史家)

沖田 英樹(豊浦映像クラブ会長)

※ご予約なくご参加いただけますが、
席数には限りがありますのでご了承ください。

展示「第18回山頭火俳句コンテスト」

開催期間中、第18回山頭火俳句コンテストの
応募作品を同時展示します。

27日には受賞作品の表彰と講評を行います。

日時：2023.5.27(土) 13:30 ~ 14:30

講評：倉本 昭(審査委員長/梅光学院大学教授)



©旧小林写真館本店 小林銀江

まつすぐな道でさみしい
いつも一人で赤とんぼ

自由律俳句の巨星・種田山頭火。孤独
感に満ちた彼の俳句は、先行きの見えない
不安に包まれた現代社会を生きる人々の
心に強く訴えかけ、多くの人に愛されている。
山頭火は1932年5月から8月までの約3
か月を川棚で過ごした。緩やかな丘陵に囲
まれた自然と温泉をたいへん気に入る、ここ
を終生の地にしたいと願った。

花いばら、ここの土とならうよ
わいてあふれるなかにねてゐる

温泉宿に泊まり、周辺の町を行き行脚し
ながら終の棲家を探したが、その願いは叶わ
ず、川棚を去っていった。

けふはおわかれのへちまがぶらり

山頭火はなぜ川棚に魅せられたのか、なぜ
安住の地が得られなかったのか。山頭火が川
棚滞在中に詠んだ307句から20句あまり
を展示、そこに込められた彼の心情を当時
の日記や写真を手掛かりに紐解いていく。

[主催] 川棚温泉まちづくり株式会社 [共催] 下関市 [企画・運営協力] 川棚温泉観光ボランティアガイドの会
[後援] 下関市教育委員会、豊浦町観光協会、川棚温泉観光協会、山口新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社

まちかどに音楽を
生活に芸術を
美しい時間を一緒に

〒759-6301山口県下関市豊浦町川棚5180
川棚温泉まちづくり株式会社
代表取締役 高瀬利也

下関市川棚温泉交流センター 川棚の杜
TEL 083-774-3855 FAX 083-774-3856
kawatananomori.com
info@kawatana.com



下関市川棚温泉交流センター